

巻地区公民館運営審議会会議概要

実施年月日	令和6年度 第1回巻地区公民館運営審議会 令和6年7月17日(水) 午前10:00~12:00		
会 場	巻文化会館 大ホール	傍聴人	0人
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・委員(9人) 福島議長、石井副議長、石田委員、海津委員、吉川委員、 小林委員、頓所委員、高橋委員、野口委員 ・事務局(11人) 巻地区公民館 : 加藤館長、朝妻 漆山公民館 : 小林館長 岩室地区公民館 : 桑原館長、関谷 西川地区公民館 : 樋浦館長 潟東地区公民館 : 村越館長、佐久間 中之口地区公民館 : 熊谷館長、野崎 		
審議案件	<ul style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度 公民館事業報告について (2) 令和6年度 公民館事業計画について (3) 公民館運営審議会の今後について 		
内 容	<p>(1)令和5年度 公民館事業評価について</p> <p>◎資料1について、各地区公民館から説明しました。</p> <p>【主な質問・意見等】※回答は→で記載</p> <p>＜巻地区公民館＞</p> <p>・サテライト会場として実施したオンラン講座の評価が良くないが、まだ一般化していないということか、ニーズや今後の方向についてどのように考えているか。また実施に向けてのオンライン環境は各館に整っているか。</p> <p>→オンライン講座のニーズはあると考えている。説明した事業に関してはスマートフォンでも気軽に参加できるということ、オンラインで実施する講座については市内の各館で情報共有するしくみとなったので、機会があれば中央公民館など他館での実施の情報を得ながらサテライト会場での実施もやっていきたいと考えている。</p> <p>→オンライン講座実施の環境について新潟市内25館全部ということではないが、西蒲区内の公民館では各館にWi-Fiを設置し、オンライン講座ができる環境となっている。</p> <p>＜岩室地区公民館＞</p> <p>・パッククッキングの講座について参加人数が少ないようだが対象はどう</p>		

内 容

いった方か。評価はCとなっているが事業の縮小となるのか。防災は今関心があると思う方が多くの方に参加いただけると良いと思う。

→対象はどなたでもとなっているが、公民館の調理台の数の関係から定員は12名となった。令和6年度はパッククッキングの講座としてはないが、講座の中でパッククッキングを行う講座を実施する予定である。防災に関する講座としては「ペットと防災」を実施する予定。

・文化祭について、公民館としては大きな事業と考えるが事業評価をD廃止とした理由については何か。

→文化祭と芸能発表会の実施について検討したが、中央公民館からの通知もあり、人員に合った事業の見直しということで精査した結果、開催見送りとさせていただいた。

・この件について、今年度実施しないということは参加団体は知っているのか。

→文化協会も解散しており集まっていただくのは難しいため、年度初めから各団体へ文化祭が無い旨をお知らせしている。

<西川地区公民館>

・子ども、保護者向け講座について学校経由でチラシを配布しているか。「子ども条例学習会」のチラシについてはどうか。

→「子ども条例学習会」は、曾根小学校、升瀉小学校、鎧郷小学校へ配布をお願いした。そのほか夏休みの「キッズ倶楽部」なども配布をお願いしている。

→西蒲区各公民館それぞれで配布をお願いしている。巻地区公民館では教育支援センターを経由してPDFデータか紙のチラシで配布をお願いしている。

→岩室、瀧東、中之口地区公民館についても、講座チラシの配布を学校へ依頼している。

・小中学校の保護者向けのチラシの配布についての考え方について、お聞きしたい。令和5年度についてはどうか。

→小学校ですが、当校、他の学校もそうだと思うが、教育委員会の主催、後援のものは確実に各家庭に届くよう紙またはPDFの場合はメールで配布している。それほど手間ではなく子どもたちとチラシについて話題にしたりすることもある。年間10件ほどあったかと思う。

→中学校に関しても同じ。

・オンライン講座で参加したいときに参加できなかった方のためのオンデマンドなど実施している公民館はあるか。

→巻地区公民館の地域学講座でアーカイブ配信を行った。人数は伸びなかった。

<p>内 容</p>	<p>たが、参加した方には喜んでいただき良い試みとなったのではないかと 思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい試みがいろいろと出てきていていつでも視られる形を保証する というのも一つの形であると感じた。 <p><潟東地区公民館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p><中之口地区公民館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>(2) 令和6年度 公民館事業計画について</p> <p>◎資料2について、各地区公民館から説明しました。 その後全体を通して質問・意見をいただきました。</p> <p>【主な意見と回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に西川地区公民館や中之口地区公民館について、他の団体との共催とい う記載があり今後の活動のカギとなると思うが、コミュニティ協議会と公 民館の関係はどうなっているか。公民館だけではなく他の団体と一緒にとい った視点を持つと面白いものができるのではと考えた。 →コミュニティ協議会と公民館の関係は決められたものはないが、それぞれ 主催事業を実施する中で、共催や手伝いといった形で出来る部分で連携して いけたらと考えている。 ・中之口地区は小さい地域でコミ協、育成会が助け合っていないとできな い事業が多く、力を合わせてやっている。 ・西川地区公民館の事業数が大変増えている。他の団体と共催しながらやっ ているようだが、人員に見合った事業の実施となっているのか。職員が疲弊 しないようお願いしたい。 →事業数は増えているが、地域のためにできる範囲で計画している。職員の 過度な負担とならないよう実施したい。 ・岩室地区の文化協会についてどうなっているか。高齢化により文化祭が実 施できないということか。一度止めてしまうとなかなか復活するのは難しい と思うが如何か。 →岩室地区の文化協会は令和4年度に解散した。昨年度は開催へ向け検討し 文化祭を実施したが、集客人数は少なかった。今後文化芸能に関して他館の 事業を参考にしながらできる範囲で取り組みたいと考えている。 ・オンライン事業についての意見として、オンラインの活用が始まってから 人と人との関わりが減ったと感じられた。しかし、サテライト会場というの は人が集まる機会を与えていただいている。公民館事業では地域の人材の繋 がりをつけるという意味でサテライトというのはとても良い機会かなと思
------------	---

内 容

った。オンライン講座でも聴くだけではなく人との関わりを作れるようなものを作ってもらえたらと思う。また、参加者を募る工夫としてチラシを配るだけでなく、いろいろな団体に声をかけていくことも必要と考えた。

・公民館の役割が危機に瀕していると考える。公民館の評価は誰がするのか。公民館も行政の一つであるから行政的な考え方、経済的に困窮している行政が末端の機関を組織としてどう扱うか。住民の健やかな生活を保障していくのが公民館の役割と考えると地域住民の評価も入れて評価をするという視点も入れる必要があると思う。公民館の在り方論議は篠田市長が一度出して以来出ていないと思う。公民館の存亡を考えると、住民の考えを大切にしていく必要があるだろう。職員の労働としてどれぐらいの事業が適正なのか線引きは難しいと思う。様々な館長の考えがあり、職員の健康や過重な労働は避けなければならない。かといって住民の必要な要望は無視できないというところで考えなければならない。公民館運営審議会は行政としての公民館の課題を理解しながら、住民の声を取り入れ、あるべき公民館の形を提言していかれたらと思う。これから新しい公民館の形を作っていかなければならない。住民がいろんなところで分断されている中で、人を繋ぐという大きな柱をなくしてはならないと考える。

(3) 公民館運営審議会の今後について

巻地区公民館長から説明のあと意見をいただきました。

【主な意見】

1) 一本化することで期待できること（ポジティブな要素）について

・西蒲区の中だけで話をしている、なかなか見えないものや実現しないことがある。中央で話ができれば、市全体の動きと課題を解決する方策が、より充実したものとなる期待が持てる。

・新潟市が合併し 20 年になるが、広い視野で見る必要があり、既に遅いくらいである。

・現在、文化祭や芸能祭等は各地域で単独で実施しているが、高齢化に伴い、参加者や作品が集まらないなど開催が難しくなっている。これらを市全体で合同実施することを要望し、実施するなどの期待が持てる。(市全体に大きなことができる可能性がある。)

2) 一本化することで懸念されること（ネガティブな要素）について

・地域の特性を踏まえた意見を公民館運営に反映できるかが疑問。

・現在は、各区で行う運審の場において、それぞれの地域の状況や情報が知ることができる。これができなくなってしまうことが懸念される。

・それぞれの地域の状況や情報が知ることができなくなった状況で、区で代

表する委員がどれくらい意見を集約し、中央の会議で思いを伝えることができるのか懸念される。

・新潟市が合併・政令市になる時に、各地域の特性を生かす市にすると云っていた。現状、中央区と西蒲区で年齢層、地域のつながり方や思いが異なる。人口規模を踏まえ、大きな方のやり方にどんどんまとめられる方向に進んでいくと、各地域での活動も少なくなり、本来地域ありきの公民館も特性が薄くなり、衰退していくことが懸念される。

・公民館職員の人数が減員され、予算も減額され、将来的に公民館も小さい所は統合されていくと聞いている。そのための前章として、運審が一本化されるのではないか。

・人口減となっている西蒲区においては、地域の運審がなくなることは公民館が衰退し、それが地域の衰退につながっていくことが懸念される。衰退する公民館は組織再編され、そのしっぺ返しをもらうのが市民である。つまり、地域の運審がなくなると、意見を言ったり支援したりする人が減り、公民館が市民と乖離・分断していくことになる。乖離・分断すると公民館は市民にソッポを向かれ、これを補うだけの相当なエネルギーと能力を持つ職員の配置がなされなければならない。地域の学習意欲が低下し、また人と人とのつながりが薄れていく方向に行きやすくなってしまふ懸念がある。

3) その他（その他の意見等）について

・今更一本化を反対しても方向性は決まっているのであるから、どうにもならないことと認識している。それならば、今後、西蒲区が、地域が、地域のためにどうやって行ったらいいのか、組織も含め考え方を議論していく方が有意義と考える。

・運審の話と云われても、どうしてもその奥にある公民館の今後の動きや関連の話になってしまう。

・公民館には、行政職員ではなく、民間の人を対象にした、それなりの資格を与えた人を多数配置し、地域住民の学習を支援する制度を立ち上げて欲しいと思う。その人たちが区の代表者に情報提供や考えを伝え、それを踏まえ中央で審議することが望ましいと考える。

以上